

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	2019年11月1日
【四半期会計期間】	第58期第1四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社アクシーズ
【英訳名】	AXYZ Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊地知 高正
【本店の所在の場所】	鹿児島県鹿児島市草牟田二丁目1番8号
【電話番号】	099（223）7385（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 榊 茂
【最寄りの連絡場所】	鹿児島県鹿児島市草牟田二丁目1番8号
【電話番号】	099（223）7385（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 榊 茂
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期 第1四半期連結 累計期間	第58期 第1四半期連結 累計期間	第57期
会計期間	自2018年 7月1日 至2018年 9月30日	自2019年 7月1日 至2019年 9月30日	自2018年 7月1日 至2019年 6月30日
売上高 (百万円)	4,950	4,800	19,586
経常利益 (百万円)	728	523	2,560
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	507	361	1,807
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	510	379	1,791
純資産額 (百万円)	12,533	13,745	13,815
総資産額 (百万円)	15,383	16,197	16,426
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	90.35	64.43	321.81
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	81.5	84.9	84.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が進み景気は緩やかな回復基調が見られるものの、消費税増税後の国内消費の低迷や米中貿易摩擦の拡大等のリスクから、先行き不透明な状況が続いております。

鶏肉業界におきましては、輸入鶏肉数量及び国内における鶏肉の生産が増加したことにより、需給バランスが緩み、鶏肉相場の低迷が継続しております。また、主要製造コストである飼料原料価格の高止まりや人件費高騰等の影響から、今後も厳しい状況が続くものと思われまます。

このような経営環境のもと、当社グループは、飼料製造段階から、飼育、鶏肉生産・加工までの全てをグループ内で行っていくことにより、様々なお客さまのニーズに応えることを目指しております。

食品事業におきましては、出荷数量の増加に努めましたが、上述した鶏肉相場の低迷及び製造コストが上昇したことに加え、一時期肥育効率が低下し、それによる製造歩留の悪化が大きく影響いたしました。現時点では、肥育効率及び製造歩留ともに改善しておりますが、今後においては一段の効率化や省力化を図り、長期的な事業構造の強化を目指した事業展開を進めてまいります。

外食事業におきましては、一店舗の閉鎖を行いました。既存店舗における販売は好調を維持しております。今後も既存店舗の継続・定期的なリニューアル及び新規出店への設備投資を強化し、セールスの向上に努めてまいります。

以上の結果、当社グループの業績は、売上高48億円（前年同四半期比3.0%減）となりました。利益面につきましては、営業利益4億97百万円（同29.6%減）、経常利益5億23百万円（同28.1%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億61百万円（同28.7%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

食品

売上高は40億11百万円（前年同四半期比5.7%減）、セグメント利益は3億37百万円（同46.2%減）となりました。

外食

売上高は6億76百万円（前年同四半期比2.7%減）、セグメント利益は89百万円（同12.5%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末に比べ以下のとおりとなりました。

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ2億28百万円減少し、161億97百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が2億29百万円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ1億59百万円減少し、24億52百万円となりました。これは主に、未払法人税等が1億86百万円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べ69百万円減少し、137億45百万円となりました。これは主に、利益剰余金が87百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の金額は、28百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,350,000
計	19,350,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月1日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,617,500	5,617,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 (100株)
計	5,617,500	5,617,500	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	5,617,500	-	452	-	428

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,614,500	56,145	-
単元未満株式	普通株式 1,400	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,617,500	-	-
総株主の議決権	-	56,145	-

(注)「単元未満株式」欄の株式数には、当社所有の自己株式49株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アクシーズ	鹿児島市草牟田二丁目1番8号	1,600	-	1,600	0.03
計	-	1,600	-	1,600	0.03

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,543	6,519
受取手形及び売掛金	1,883	1,653
製品	290	305
仕掛品	230	220
原材料及び貯蔵品	654	782
その他	303	177
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	9,905	9,659
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	672	659
工具、器具及び備品(純額)	1,422	1,451
土地	2,343	2,343
その他(純額)	1,135	1,147
有形固定資産合計	5,575	5,602
無形固定資産		
投資その他の資産	8	8
投資その他の資産		
投資その他の資産	937	928
貸倒引当金	1	0
投資その他の資産合計	936	927
固定資産合計	6,520	6,538
資産合計	16,426	16,197
負債の部		
流動負債		
買掛金	424	355
1年内償還予定の社債	35	35
短期借入金	-	1
未払金	1,155	1,125
未払法人税等	363	177
賞与引当金	-	135
その他	171	204
流動負債合計	2,150	2,034
固定負債		
役員退職慰労引当金	115	117
退職給付に係る負債	173	167
その他	172	132
固定負債合計	461	417
負債合計	2,611	2,452
純資産の部		
株主資本		
資本金	452	452
資本剰余金	428	428
利益剰余金	12,880	12,792
自己株式	1	1
株主資本合計	13,759	13,671
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	55	73
その他の包括利益累計額合計	55	73
純資産合計	13,815	13,745
負債純資産合計	16,426	16,197

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
売上高	4,950	4,800
売上原価	3,167	3,366
売上総利益	1,783	1,433
販売費及び一般管理費	1,076	936
営業利益	706	497
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
持分法による投資利益	3	3
受取家賃	7	9
為替差益	5	7
その他	3	4
営業外収益合計	22	26
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	728	523
特別損失		
固定資産除却損	-	0
特別損失合計	-	0
税金等調整前四半期純利益	728	523
法人税、住民税及び事業税	262	211
法人税等調整額	41	50
法人税等合計	221	161
四半期純利益	507	361
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	507	361

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	507	361
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	17
その他の包括利益合計	2	17
四半期包括利益	510	379
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	510	379
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
減価償却費	132百万円	182百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年9月21日 定時株主総会	普通株式	421	75.00	2018年6月30日	2018年9月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月18日 定時株主総会	普通株式	449	80.00	2019年6月30日	2019年9月19日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2018年7月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	食品	外食	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,255	695	4,950	-	4,950
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	-	0	0	-
計	4,255	695	4,950	0	4,950
セグメント利益	626	79	706	0	706

(注)1. セグメント利益の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2019年7月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	食品	外食	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,011	676	4,688	112	4,800	-	4,800
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	-	0	-	0	0	-
計	4,011	676	4,688	112	4,800	0	4,800
セグメント利益	337	89	426	70	496	0	497

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、再生可能エネルギー事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	90円35銭	64円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	507	361
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	507	361
普通株式の期中平均株式数(株)	5,615,892	5,615,851

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月 1日

株式会社アクシーズ

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西元 浩文 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 濱村 正治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アクシーズの2019年7月1日から2020年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アクシーズ及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。